

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 8 2 号

【平成 27 年 11 月 2 日 (月) 発行】
発行：J A グループ宮城災害復興本部
編集：J A 宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

1. 「大筋合意は国会決議違反！」TPPで宮城県JA代表者緊急抗議集会
2. 「みやぎまるごとフェスティバル 2015」で米消費拡大PR
3. 東京で「みやぎの農業復興フェア」。県産のおいしさと復興をアピール
4. 全国連 8 団体が豪雨被害に見舞金
5. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 50 次請求

1. 「大筋合意は国会決議違反！」TPPで宮城県JA代表者緊急抗議集会



反対運動の継続へ「頑張ろう」を三唱する集会参加者

TPP交渉の大筋合意を受けて、JA宮城中央会と県農協政治連盟は10月19日、仙台市で県JA代表者緊急抗議集会を開きました。米の特別輸入枠設定や関税撤廃・削減に怒りの声が相次ぎ、「大筋合意は明らかに国会決議違反であり、断じて容認できない」との決議を、満場一致で採択しました。今後、政府に合意内容と国会決議との徹底した検証、情報開示を求め、安易に国会批准をしないよう訴えていくことを確認しました。

JA生産組織代表者や青年部・女性部代表、JA組合長、反TPPネットワーク構成団体の代表者など約200人が参加しました。石川壽一会長は「合意内容は震災復興の足かせになるのはもちろん、農業者の営農意欲を大きく損なう。地域農業、ひいては地域そのものの崩壊につながり

かねない」と、強く抗議しました。

生産現場を代表して3人が意見表明。JA南三陸の高橋正組合長は「果樹、野菜、そして管内の主産業である水産物まで即時関税撤廃とは寝耳に水で、震災復興に一丸となっている中、激しい怒りを覚えずにいられない」と声を荒らげました。稲作農家代表、JA名取岩沼青年部の太田洋介さんは「農業という仕事に誇りを持ち、子どもたちに就職したいと思われるようになりたい、と頑張っているが合意内容は営農意欲を奪うものだ」と抗議。畜産農家代表、JA加美よつば青年部の橋本拓未さんは「ぎりぎりの経営を続けている中、関税削減で肥育農家、繁殖農家に甚大な影響が出るのは間違いない。到底納得できない」と怒りの声をあげました。

また、宮城県生協連の加藤房子常務が「マスコミ報道ではTPPのメリットばかり強調されているが、食の安全・安心が本当に守られるのか。今後も共に運動を継続していこう」と連帯の挨拶をしました。

2. 「みやぎまるごとフェスティバル 2015」で米消費拡大PR

「みやぎまるごとフェスティバル 2015」が、10月17・18日、仙台市の勾当台公園などで開かれました。

JA宮城中央会のブースでは、県農協青年連盟とJAみやぎ女性組織協議会の委員らが、新米試食やクイズラリー、おにぎり作り体験などで米の消費拡大をPRしました。



新米でおにぎりを作る子どもたち

女性部員らは、炊き立ての環境保全米「ひとめぼれ」を2日間で約700人に振る舞い、おいしさをアピールしました。小学生以下の子どもを対象にしたおにぎり作り体験には、2日間で約200人が参加しました。

青年部員らは、「安心安全みやぎのお米」クイズラリーで、環境保全米の取り組みや「みんなのよい食プロジェクト」などをPRしました。県内7JAや県農業大学校、農業高校などもブースを出し、新鮮な野菜や果物、加工品などを販売しました。

3. 東京で「みやぎの農業復興フェア」。県産のおいしさと復興をアピール

JA宮城中央会は10月8・9日、「みやぎの農業復興フェア」を東京・大手町のJAビル農業農村ギャラリーで開きました。

環境保全米の新米や仙台黒毛和牛、県産野菜や果物などを販売し、宮城産のおいしさと復興をアピールしました(=写真④)。

ライシーレディの佐藤なつみさんも参加し、新米を販売した他、梨「あきづき」の試食を振る舞いました。新米「ひとめぼれ」と「宮城野豚」、仙台黒毛和牛を使った弁当も限定販売し好評でした。

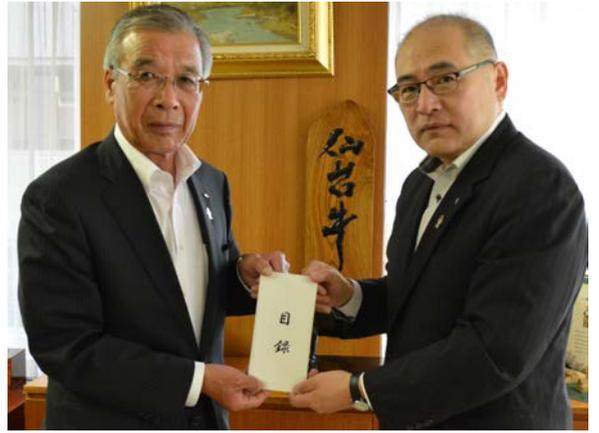


4. 全国連 8 団体が、9 月の豪雨被害で J A グループ宮城に見舞金

J A 全中、J A 全農、J A 共済連、農林中央金庫、(株)日本農業新聞、(一社)家の光協会、全国厚生連、(株)農協観光の全国連 8 団体は 10 月 20 日、J A グループ宮城災害対策本部に、9 月の集中豪雨被害の見舞金を送りました。

8 団体を代表して、全中の比嘉政浩専務が仙台市を訪れ、災害対策本部の石川壽一会長に目録を手渡しました。

石川本部長は「大切に使用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。



目録を手にする比嘉専務[㊟]と石川本部長

5. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 50 次請求

J A グループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は 10 月 30 日、東電に対し第 50 次請求として 2740 万円を請求しました。

内訳は、牧草の利用自粛等にかかわる損害が 2,600 万円、牧草地の除染にかかわる損害が 140 万円となっています。

以 上